

令和6年度 自 己 評 価 表

愛媛県立川之石高等学校

学校番号(36)

教育方針	教育基本法・学校教育法に基づいて、勤労と責任を尊び、真理と正義を愛するとともに、社会的使命感を自覚し、国際社会の平和と人類の発展に貢献できる、心身ともに健全な青年を育成する。	重点目標	「自らを磨く力・他と協力する心の育成」 ー夢の実現に向け、地域と共に歩む人づくりー (1) 自己の進路への自覚を深めさせる学習を通した確かな学力の定着と向上 (2) 豊かな人間性や健康・体力などの社会で生きる力の育成 (3) 「夢」をかなえる進路指導の充実 (4) 地域に信頼され、地域に貢献できる学校づくり・人づくり
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 校 経 営	重点努力目標達成への努力	重点努力目標及びマニフェストの数値目標を踏まえた教育活動を実践する。	A	地域と連携した教育活動が様々な場面でされており、良好な教育活動が実践できている。	ICT機器を活用しながら、各科・課の連携を図り、円滑な学校経営に努めたい。
	地域と連携した教育活動の推進と特色ある学校づくり	地域と連携した交流活動を20回以上実施する。 A：20回以上 B：19～15回 C：14～10回 D：9～5回 E：5回未満	A	総合探究Ⅱの中で、地域と連携し研究を進めている。また、農業科では小学生との農業交流、海洋ゴミ回収イベントの実施するなど、学校全体としては総計30回実施した。	来年度以降も活動できるように予算と時間の確保をしていきたい。
		「産業社会と人間」「総合探究Ⅰ」「総合探究Ⅱ」の学習活動を充実させる。	C	「産業社会と人間」及び「総合探究Ⅰ」では、社会人講師を活用するなど、「地域から学ぶ」本校ならではの学習活動を展開することができた。また、総合発表会をゆめみかんで実施し、保護者や地域の方々に御参観いただくことができた。	「総合探究Ⅱ」においては、例年、保育所や保健所をはじめ、生徒が外部の方から御指導を仰ぎ、自らの探究活動を深めている。このような伝統を保持しつつ、さらに地域との連携を深めたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

教科指導	指導方法の工夫・改善と分かる授業の展開	学習指導法（チーム・ティーチングや少人数授業、習熟度別学習、ICT機器の活用）の工夫と改善に努め、生徒自ら学ぶ意欲	B	電子黒板や生徒の1人1台端末を利用した授業が行われるなど、ICT機器を利用している授業が多く見られるようになった。	教員のICT活用のスキルアップをさらに図り、より効果的な授業が行えるよう研究を進めていきたい。
教科指導	指導方法の工夫・改善と分かる授業の展開	社会人講師を活用した特色ある授業を推進する。（社会人講師活用授業年間80時間以上） A：80時間以上 B：79～70時間 C：69～60時間 D：59～50時間	A	社会人講師を活用した授業の実施時間数は81時間であった。社会人による講義等の実施により教育内容の充実を図り視野を広げることができた。	社会人を活用した授業の実施により、より専門的な知識・技術の習得を含め、視野を広げ、学習意欲の向上につなげていきたい。
	適切な評価の工夫	教科会を定期的に関き、評価規準を明確にし、評価に関する共通理解を図る。 A：5回以上 B：4回 C：3回 D：2回 E：2回未満	B	評価に関する教科会は、教科によってばらつきはあるが年3～6回実施している。平均は4.4回であった。観点別評価についても3年目となり定着しつつある。	来年度も定期的に教科会を実施するとともに、他校（学習評価推進校等）の評価も参考にするなど、観点別評価について引き続き研究を進めていきたい。
	資格取得の推進	資格取得への意欲を持たせる。（資格取得者延べ400名以上） A：400名以上 B：399～350名 C：349～300名 D：299～250名	A	資格試験を実施している教科は、国語科・英語科・家庭科・商業科で、資格取得者数は、405名であった。	1人でも多くの生徒が上位級にチャレンジできる教育環境を整備していきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

教科指導	家庭学習の充実	一日の家庭学習時間を平均2時間以上確保させ、学力の向上を目指す。 A：2時間以上 B：1時間59分～1時間45分 C：1時間44分～1時間30分 D：1時間29分～1時間15分 E：1時間15分未満	C	全校生徒の1日の平均時間は1時間44分であった。2時間以上の目標を達成している生徒は、1年次28名・2年次24名・3年次30名であった。	家庭学習時間入力が継続できておらず、入力状況が悪かった。担当の先生が職朝で呼びかけたり、担任に連絡したがあまり効果がなかった。毎日の入力は負担が大きすぎるので、次年度は期間を決めて実施させて
生徒指導	基本的生活習慣の確立	欠席者0名の日100日以上を目指す。 A：100日以上 B：99～95日 C：94～90日 D：89～85日 E：85日未満	E	1学期に欠席者0名は5日、2学期は0日であった。不登校の生徒が複数名在籍していたことと、体調不良で遅刻・早退・欠席が多い生徒が数名いたため。 (2学期末までの集計)	基本的生活習慣を身に付けさせるよう指導すると同時に、日頃から体調を整え元気に登校できるよう呼び掛けていきたい。
	学校安全の推進	防災退避訓練では、人命第一の避難と安否確認をすみやかに行う。	A	予告なしで詳細を知らせず実施したが、迅速な避難をすることができた。	けが人が出たことを想定するなど、より効果的な避難訓練になるように実践的な訓練を行っていきたい。
		本人の不注意による交通事故発生件数0件を目指す。 A：0件 B：1～5件 C：6～10件 D：11～15件 E：16件以上	B	登校途中に川之石高校生同士の自転車接触事故の報告が1件あった。擦り傷等があったものの、大きな事故ではなかった。	引き続き、定期的な交通安全指導を実施し交通事故防止に取り組むと同時に、H R活動等を活用し、交通安全意識の高揚を図りたい。
特別活動	ホームルーム経営の充実	クラスの連帯感や生徒間の人間関係の構築を促し、誰もが安心できる学級づくりを目指す。(個人面談各学期2回以上) A：6回以上 B：5回 C：4回 D：3回	A	個人面談を各学期2回、年間6回実施した。個々の進路実現に向けた個人面談を行ったり、日々の学校生活での様子に気づきながら声掛けを行い、その都度対応している。	生徒が教員に対して、さらに話しやすい環境づくりを図りたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

特別活動	学校行事・生徒会活動等の活性化	学校行事満足度90%以上を目指す。 A：90%以上 B：89～80% C：79～70% D：69～60% E：60%未満	A	生徒の学校評価アンケート結果では、3以上の評価が96%であった。今年度は110周年記念ということもあり、各行事を生徒だけでなく教職員も一緒になって盛り上げて活動した。	残り少ない学校行事をさらに盛り上げられるような企画を考えていきたい。
特別活動	体験的学習への意欲的取組	ボランティア活動認定者100名以上を目指す。 A：100名以上 B：99～80名 C：79～60名 D：59～40名 E：40名未満	C	最終認定者数は77名だった。今年度から、コロナ禍以前の「20時間以上の活動で達成」としたため、認定者数が減少した。	ボランティア活動の参加者は、前年度とほぼ変わらない。100名以上は達成できていないが、生徒は、今まで同様に活発に取り組んでいきたい。
	部活動の活性化	部活動加入率90%以上を目指す。 A：90%以上 B：89～80% C：79～70% D：69～60% E：60%未満	A	部活動加入率は90%であった。90%以上を達成したが、実際に活動している生徒数は昨年度に比べて減少した。	部活動に加入していない生徒にも学校内で活動できる機会を増やせるように考慮したい。
		県総体出場部活動数（運動部）80%以上を目指す。 A：80%以上 B：79～70% C：69～60% D：59～50% E：50%未満	A	運動部数9つ（高体連関係）のうち8つの部活動が出場し、89%であった。	各部の部員数が減少しているが、その中での県大会出場は素晴らしい。一人一人が活躍できるようにしたい。
		県高文祭出場部活動数（文化部）80%以上を目指す。 A：80%以上 B：79～70% C：69～60% D：59～50% E：50%未満	A	文化部数5つ（高文連関係）のうち4つの部活動が出場または出展し、80%を達成した。	運動部同様に文化部員数が減少している中でも、出場または出展していることは、素晴らしい。さらに一人一人が活躍できるようにしたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

進路指導	生徒の進路実現の達成	生徒の進路実現において、 進路決定100%を目指す。 A : 100% B : 99～95% C : 94～90% D : 89～85% E : 85%未満	B	2月14日現在で進路未決定者は1名である。国公立大学の一般試験を受験予定である。進路決定は98%である。複数の学校を受験するため、3月には進路決定すると思われる。	今年度も進路実現については、100%を達成できると思われる。ただし、大学入試についてはチャレンジしていく生徒の育成も必要である。
進路指導	ガイダンス機能の充実	進路説明会やガイダンスなどで上級学校や企業からの講師を積極的に招き、進路に対する意識を高める。参加する企業または学校の数が A : 50以上 B : 49～40 C : 39～30 D : 29～20	A	6月の進路説明会、1月の合同説明会の他、12月には松山大学情報学部の説明会を実施しており、参加校や企業、講師の数を合わせると62となる。	説明会などの機会は来年度も今年度と同じ程度の数を確保していきたい。
		面接試験・小論文試験等における傾向と対策を研究し、指導内容の充実を図る。	A	面接や小論の指導は、多くの先生方の協力で、計画的に実施できた。また、学研の小論文対策の説明会にも参加した。	できるだけ多くの教員で指導に当たれるよう、工夫していく必要がある。
	情報提供の充実	進路情報の文書配布や広報活動を通して、生徒・保護者に情報を提供する。	A	学校に届けられる様々な資料は、配布、掲示を行った。また、求人の情報については、今年度から、求人	掲示のスペースについてはさらに工夫したい。また、求人情報は、今までより早期から示せるようにした
人権・同教	生徒の人権意識の向上	「人権だより」を年間10回発行する。人権・同和教育ホームルーム活動や講演会を通じて、人権問題の解決のための実践力の育成に努める。 A : 10回 B : 9回 C : 8回 D : 7回 E : 7回未満	A	人権だよりの発行は10回となる見込みである。朝読書の時間をいいただいて生徒には読ませているので、生徒は読んでいる。	持ち帰って保護者にも読んでもらうよう呼び掛けているが、読んでもらえている割合が低い。HPにも掲載してるが、別の手段で何とか保護者の目に触れる機会を増やしたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

人権・同教	教育相談体制の充実	「教育相談だより」を年4回以上発行し、生徒及び保護者への相談体制の周知を図る。 A：4回以上 B：3回 C：2回 D：1回 E：0回	A	教育相談だよりの発行は4回となる見込みである。その時期の生徒の様子に応じて、掲載する内容を変えてもらっている。	保護者の相談者も少しずつ増えているので、来年度も啓発を続けていきたい。
特別支援教育	生徒のニーズの把握と支援	生徒一人一人の実態把握に努め、個に応じた支援の充実を図る。	C	学校独自の実態把握を今年度から1年次生を対象に始めた。本人の評価と、担任の評価のすり合わせで見えてくる実態もあった。支援の必要な生徒が多く、支援が十分ではない場面もあった。	BWAP2などの就労に関するアセスメントツールの利用を通して、もっと個人の実態を細やかに把握したい。それを1年次からの進路指導に活かしたい。
情報・図書・研修	校内LAN及びコンピュータの適切な利用促進	研修会又は情報提供を年間4回以上行い、教職員の活用に関する基本的な知識・技術の育成を図る。 A：4回以上 B：3回 C：2回 D：1回 E：0回	A	自動採点システムの導入に関する情報提供や、セキュリティ研修などを4回行うことができた。	情報を扱う上で危険なことは時代とともに変わってきているということを意識し、常に新しい知識を取り入れていきたい。
	ホームページの充実	ホームページに年間200以上の記事をあげ、魅力あるホームページの作成に努める。 A：200以上 B：199～180 C：179～160 D：159～140	C	1月31日の時点で176記事をあげている。今後総合発表会や卒業式などの学校行事でも積極的に記事をあげて、学校の様子を伝えていきたい。	記事をあげるタイミングが遅れてしまったことがあったため、迅速にあげられるように努めたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

情報・図書・研修	校内研修の充実	研修会又は情報提供を年間8回実施し、相互研修に努め指導力の向上を図る。 A：8回以上　B：7回 C：6回　　　D：5回 E：5回未満	A	県の基礎研修を受けておられる先生方だけでなく、多数の先生方が合計6回研究授業を実施し、研究授業が行われた教科以外の先生方も積極的に参観した。また、公開授業を2回行った。全教職員対象の接遇マナー研修も実施した。	研究授業後の授業研究会では、活発に授業について議論がなされるが、多忙なため出席される先生が少ない場合もあるため、多くの先生が出席できるように開催する時間等について検討したい。
業務改善	職場環境の改善	職場環境の改善に努め、業務の効率化を図り、時間の有効活用を行うことで、教職員の心理的負担の軽減を図る。	A	行事・会議の精選、配布物を紙媒体から電子データでの配信、毎週木曜日の定時退庁日の実施、朝の職員朝礼を火・木曜日の2回に削減等、教職員の負担軽減に努めることができた。	教職員の身体的・精神的負担の軽減を図り、勤務内容の効率化のための工夫と休暇等を取りやすい環境など働き方改革の実施に取り組みたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった　B：かなりの成果があった　C：一応の成果があった　D：あまり成果がなかった　E：成果がなかった）とする。